シベリア先住民諸語の記述的・類型論的研究

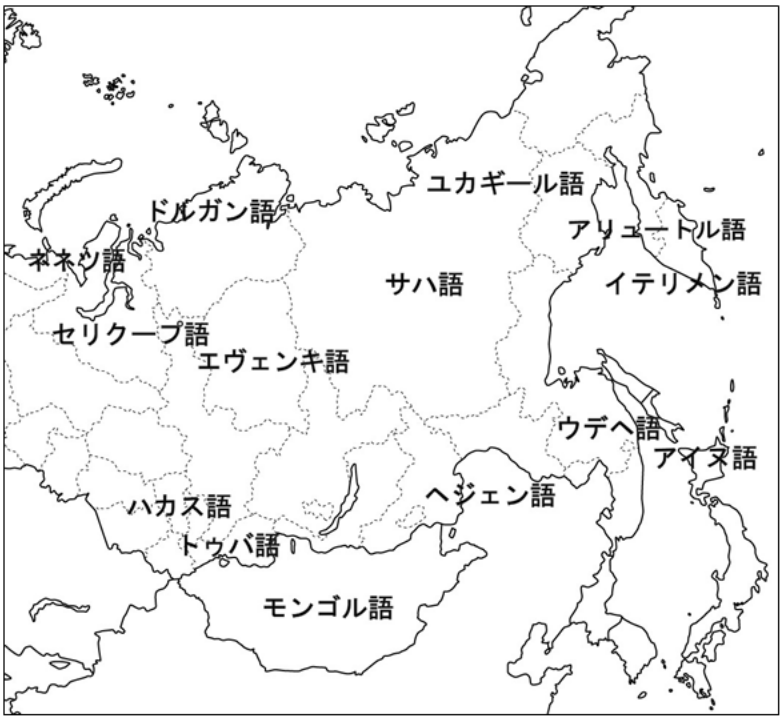
（令和４年度・活動実績報告）

■ プロジェクトの研究目的

日本の真北にあたるシベリア地域では，歴史的系統や類型的特徴が大きく異なる多数の言語が話されています．その多くは，話し手の数が極めて少ない少数言語・危機言語です．これら小さな言語も，研究対象としては英語や中国語などの大言語と等しい価値を持っています．どの言語も独自の緻密な構造を備えており，さらには祖先の言語の状態を知るための手掛りを内包しているからです．

本研究プロジェクトは文献資料の乏しいシベリア先住民諸語を研究対象とし，歴史的変遷と言語類型論的特異性に焦点をあてます．シベリア地域における系統関係の異なる言語同士が相互接触を繰り返して現在の姿に至るまでの歴史的過程を解明し，国家語の影響や標準語成立による平準化の前の段階では現在よりも言語類型論的に際立った特異性を示す，という仮説を検証します．

本研究プロジェクトは，科学研究費（基盤研究Ａ）「シベリア先住民諸語の総合的研究： 文献以前の歴史的空白の解明と言語類型論への展開」（研究代表者：江畑冬生）と連携しています．



［地図］ 研究対象とするシベリア先住民諸語の分布図

■ 令和４年度の主な学会発表と論文

Passive and Reflexive Voices in Sakha (Yakut) and Tyvan. “The 2022 Conference of the Altaic Society of Korea” Seoul National University / Online, Korea. （2022 年 11 月）

「トゥバ語複数接辞の非複数性機能： サハ語集合対格接辞との関連を視野に」 日本北方言語学会第 5 回大会： 静岡大学（2022 年 11 月）

A contrastive study of WH-question suffixes in Sakha and Tyvan. 『알타이학보』(Altai Hakpo) vol.32, 157-170. （2022 年 6 月・Syuryun Arzhaana との共著）

■ 令和 4 年度のその他の研究成果・アウトリーチ活動

「シベリアの少数民族：サハとトゥバの言語と文化から日本を見る」 新潟東ロータリークラブにおける講演（2022 年 8 月）

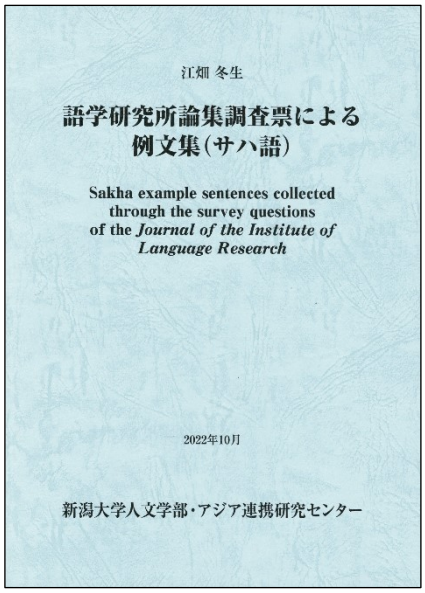
日本シベリア学会第 8 回研究大会の共催（2023 年 2 月・ハイブリッド開催）

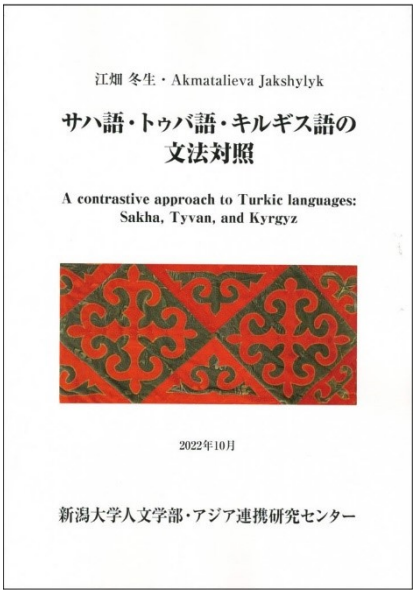
■ 令和 4 年度の出版物

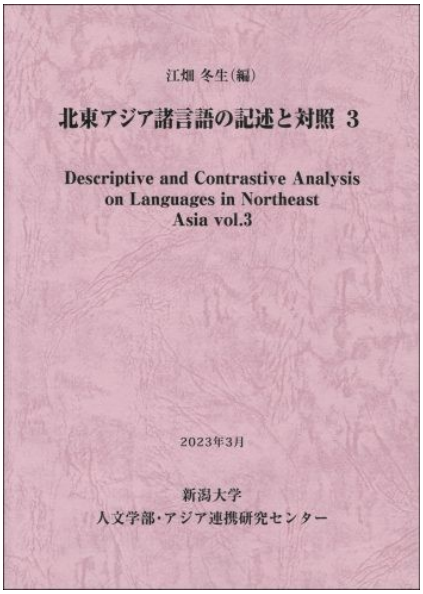
『サハ語・トゥバ語・キルギス語の文法対照』（2022 年 10 月・Akmatalieva Jakshylyk との共著）

『語学研究所論集調査票による例文集（サハ語）』（2022 年 10 月）

『北東アジア諸言語の記述と対照 3』（2023 年 3 月）







■ 令和 5 年度の主な活動計画

科学研究費主催による研究会「シベリア先住民諸語の歴史と類型 3」開催 （2023 年 5 月）

日本言語学会第 166 回大会でのワークショップ （2023 年 6 月）

The 16th Seoul International Altaistic Conference での口頭発表 “Non-plural use of the Turkic plural suffixes: associative, approximation, and coordination” （2023 年 7 月・ソウル大学）

The 5th International Symposium on Northern Languages and Cultures での口頭発表 “Overview of the Functions of Sakha (Yakut) and Tyvan Converbs” （2023 年 8 月・ナザルバエフ大学）

日本北方言語学会第 6 回大会の共催（2023 年 11 月・ハイブリッド開催）

『北東アジア諸言語の記述と対照 4』刊行 （2024 年 3 月）

江畑 冬生（人文学部・教授）